

コロナ禍に苦しむ子供たちを励まそうと、釧路川のほとりで「くしろエール花火大会」が昨年3月に初めて開かれた。実行委員長を務めた釧路市の斎藤剛史さん(50)。今年3月12日にも釧路管内釧路町の水面貯木場で、再び花火大会を予定する。本業はバス事業などを手掛ける会社の社長。畑違いのイベント開催に同年代の仲間と挑む思いを聞いた。

(聞き手・釧路報道部 相川康暁)

くしろ川連携花火実行委員長 斎藤 剛史さん(50)

—釧路市

節目の3月 子供にエール

と提案したのが発端です。釧路市の施設である水面貯木場は釧路町内にあります。市と町ですが、住んでいる人に垣根はなく、地域活性化も兼ねて開催を決めました」

—主催の団体はくしろ川連携花火実行委員会という名称ですね

「釧路川は釧路市にも釧路町にも流れています。市民が町で買い物したり、町民が市で働いたりという結びつきは強い。会場の水面貯木場はまさに象徴するような施設です。新型コロナウイルスの影響も同じように受けている市民、町民を励ましたいという思いを込めました」

—昨年は800発もの花火を打ち上げました。

「3月は年度末や卒業式といった門出への季節。その節目に子供たち

「花火大会を企画したのはなぜですか。」

「新型コロナウイルスの感染拡大で、一昨年に釧路町内では花火大会が一度もありませんでした。ある女性から『娘が大好きな花火大会がない』と言われ、花火を楽しみにしている人が多いと気づきました。一昨年10月に同年代の知人と集まった際、『花火大会を開いてはどうか』

へエールを送りたいという私たちの思いに、大勢が賛同してくれたおかげです。釧路市や釧路町などの315社が約600万円の協賛金を寄せてくれたほか、札幌や沖縄からも寄付をいただき、予想以上の広がりでした。今年はさらに花火の数やサイズを増やしたいと考えています」

—当日は無観客開催でライブ配信もしましたね。

「前回はコロナの感染拡大で急ぎ無観客開催を決め、釧路市のチューバーのavaさんに出演してもらって生中継しました。600人以上が視聴し、『元気をあげよう』や『最高』などの感想もありました。ドローンで空撮もし、動画投稿サイトにチューブには動画も上げました」

—苦勞もあったのではないですか。

「実行委員会は13人ほど。ほぼ同年代のおっさんです。花火1発の価格も知らず、ノウハウはありませんでしたが、花火の延焼を防ぐための草刈りや、足場とする鉄板敷きなどできることは自分たちでやりました。『おっさんパワー』を見せたいと力を尽くしました。天候も心配しましたが、当日は穏やかな晴天でほっとしました。翌日は高校生のボランティアも花火の後片付けを手伝ってくれて助かりました」

—今年も再び開催を決めました。



花火大会開催への思いを語る斎藤剛史さん

1971年、釧路市出身。2014年にバス事業や観光事業を手がける釧路衛星(釧路管内釧路町)の社長に就任。町商工会や町観光協会の副会長も務める。今年の花火大会の寄付も受け付けており、問い合わせは釧路衛星 ☎0154・40・3131へ。

「コロナの感染拡大は続き、多くのイベントが中止を余儀なくされています。子供たちは、大人の判断で部活動の中止などつらい生活を強いられています。私も中学生2人の父親。花火大会に冠した『エール』は、少しでも元気づけたいという思いの表れです。今年は新たにキッチンカーなどの飲食ブースやダンス、音楽などステージイベントを行います。周辺の商業施設に人を呼び込めるような経済効果も見込んでいます」

—新型コロナウイルスは収束するところか、かつてない広がり方をみせています。

「感染状況を見極めながらの開催方法にならぬと思います。酒類の提供のあり方や観客同士の距離を検討する必要があります。無観客でも今年も熱い花火を上げたい。いつか釧路だけでなく、他の地域でも同じ日に花火大会でエールを送るようになることが私たちの夢です」

道東
ひと巡り
輝いて